

でんち

一般電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2022年12月号

第 105 回 二次電池第 2 部会を開催

2022年11月25日(金)、一般社団法人電池工業会は第105回二次電池第2部会をWeb会議で開催した。冒頭でBAJ競争法コンプライアンス・ルールを遵守することを確認したのち、清水専務理事より挨拶があった。続いて各委員会の代表者から、2022年度のこれまでの活動報告がなされた。

1. 専務理事挨拶

・バッテリー議連が11月21日に開催され、令和4年二次補正予算案における蓄電池関連予算が報告された。蓄電池産業戦略検討官民協議会で検討された内容で、バッテリーは経済安全保障上、極めて重要な産業であり、また、日本の屋台骨である自動車産業において、バッテリーはグローバル競争で必須であることが認識され、議連の要求が財務省に提出された。

自民党から財務省に直接予算化の要望を出して頂いており、早いスピードで予算が成立したと思う。2030年に向けて総額3兆円、令和4年度二次補正では5000億円が要望されており、今後、業界としてしっかりした事業展開が求められるので、各会員企業においては、十分な戦略検討を行って、税制財源を勝ち取る様、推進して頂きたい。

工業会としては普及促進委員会を中心に活動を行

っているが、その活動に留まらず、各社の事業戦略に反映できるよう連携してほしい。

2. 各委員会報告

各委員会より資料に沿って活動内容の説明がなされた。

◆技術委員会

1) 分科会報告

<リチウム二次分科会>

- ・IEC 62133-2(ポータブルリチウム二次安全)改正対応。
- ・強制内部短絡試験の統一について、JIS C8715-2と同様の試験手順をポータブル機器用二次電池にも適用可能とするため、JIS C62133-2の改正を検討。

<LIB安全性技術WG>

- ・ JARI 電池セル SWG での IEC 62660-1, 2, 3 の改訂対応、-3 については、釘差しについて規格記載の FISC 試験の代替として DISC 試験が使えるか確認中

<据置 LIB 分科会>

- ・ JIS C8715-2 改正の素案を日本規格協会と共同で作成中。
- ・ 韓国提案の周波数調整用 ESS 規格の NP (21A/807/NP) の投票の結果は、賛成票、規格作成参加国のいずれも可決必要数に満たず否決された。

<非駆動用車載 LIB 分科会>

- ・ IEC 63118 ed1 CDV (非駆動用車載 LIB 性能) に対応、TC21/WG2 国際会議で内容説明。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ・ IEC 61951-1 ed4 AMD (Ni-Cd 性能) FDIS 移行、IEC 61951-2 ed4 AMD (Ni-MH 性能) 23 年 1 月正式発行。

<産業用ニッケル水素分科会>

- ・ IEC 63115-1 (産業用 Ni-MH 性能) 23 年 1 月に ED1 AMD 正式発行決定、IEC63115-2 (産業用 Ni-MH 安全)、JIS 独自規格 (筐体への難燃材使用) を IEC 規格へ追加する提案を実施。

<PSE-WG>

- ・ 電安法技術基準の解釈別表第九は、22 年 12 月に廃止の見込み。また、適用猶予期間は 2 年間の見込み。

<蓄電システム WG>

- ・ 国交省の建築設備計画基準及び建築設備設計基準 (各令和 3 年度版) 審議実施。

<環境規格分科会>

- ・ IEC 63218 (二次電池環境)、IEC60086-6 (一次電池環境) の統合については進捗なし。

<リユース規格分科会>

- ・ IEC 63338 ed1 (二次電池用リユース一般ガイダンス規格) CDV 移行、IE C63330 (駆動用リユース

製品規格) JARI で審議中。

<CFP 規格分科会>

- ・ IEC 63369-1 (産業用 LIB の CFP 計算方法に関する規格) CD2 の多数のコメントがあり、SC21A 国際会議で CDV 移行が承認されず、PT 会議を通じてコメント対応、CDV 作成に、対応していく。

2) 関連委員会の対応

① 108 委員会対応

- ・ IEC 62368-1 ed4 (オーディオ・ビデオ、情報・通信技術機器安全) FDIS に移行。
- ・ IEC 60065、IEC 60950 及び MT1, 2 の廃止に対して、IEC 60065、IEC 60950 は反対、MT1, 2 は賛成とした。

② BASC 主催 ISO/TC333 国内委員会対応

- ・ 中国提案の SBP (戦略ビジネスプラン) の改正案を議論。CIB (委員会内投票) にかかる予定だが、反対多数のため否決される模様。
- ・ WG を調整するアドホックグループ設立の提案文書に合意。

3) 技術委員会審議事項

① 108 委員会の今後の対応

- ・ 今後 BAJ として参加するかどうか次回の技術委員会で審議予定。

② TC120/IEC 62933-5-2 ed2 CD 対応について

- ・ BAJ としては対応しないことを決定。来年度以降の対応は次回の技術委員会で協議。

③ SC21A 議長立候補募集について

- ・ 正会員各社委員に立候補者の有無を確認。

◆国際電池規格委員会

- ・ 10 月に開催された SC21A 国際会議で、来年春頃から複数の規格更新 (IEC 61951-1 Ed. 5 (Ni-Cd 性能)、IEC 61951-2 Ed. 5 (Ni-MH 性能)、IEC 63115-

1 Ed.1(産業用 Ni-MH 性能) が検討されており、IEC 63115-1 については、更新が合意されている。それに加え、リユース、CFP 関連の規格開発が実施される見通し。

- ・ ISO/TC333 リチウム Plenary 会議開催 (10 月 12 日) : 中国が活物質の仕様を規格標準化したいという提案に対して各国は反対しているが、投票で審議。
- ・ SC21A サンフランシスコ会議開催 (10 月 24 日～28 日) :
 - 規格開発は順調に進んでいるが、韓国、インドは LIB に関する規格提案の活動が活発化している。
 - TC120、TC333 が SC21A のスコープに踏み込んでくる活動には警戒が必要。
 - 議長退任に伴う主要ポストの交代で運営面の変化に注意。
 - IEC 62133-1、-2、IEC 63115-2、IEC 62620 の規格改訂開始。
 - 日本主導規格である IEC 61960-4、IEC 63338 は CDV 移行
 - IEC 63369-1 に韓国 NC から CFP 専門家が参加。
 - ・ TC120 蓄電システムのスコープ逸脱に対して、ドイツが強い不満を表明しており、ドイツが IEC 上層委員会 SMB に相談を持ち掛けている。
 - ・ インドが新規案件を 4 件提案、PL の意向を表明する動きがでてきている。

◆国際電池輸送委員会

<国際電池輸送委員会>

(1) SAE G-27 WEB 会議

- ・ AIR6840 ドラフトの投票が実施され、34 人中 23 人の反対という結果であった。今後、AIR の範囲、言葉、スコープ、詳細の議論を継続実施する予定。投票時のコメントに対してドキュメントを改善していく。
- ・ AS6413 ドラフト審議、アクションアイテムについ

て、WG で検討を行い、定例会議、国際会議で内容を精査中。来年 1 月、AS6413 Narrow Scope の投票を予定。その後、Aerospace Council 評議会で投票にかけて 2023 年第 1 四半期内の発行を目指す。

- (2) リチウム金属電池およびリチウムイオン電池の輸送に関する手引書(第 11 版)作成
- ・ 2023 年 1 月発行に向けて、毎月の委員会でも国際規則との差分を改訂。

<WG>

(1) 小型全固体 LIB 輸送 WG

- ・ 6 月の国連危険物輸送専門家小委員会の非公式文書提案は取り下げたため、第 61 回国連危険物輸送専門家小委員会(11 月 28 日—12 月 6 日、Geneve)に向けて提案文書を準備。
- ・ PRBA、自工会、日本海事検定協会、航空局の各関係部署へ説明し、対応について相談。ハザードベースですすめるアイデアや、全固体の定義についての議論の必要性、航空輸送向けに Focus した対応を進める話などがでた。まずは ICAO への提案にむけた対応を進めてきたが、航空規則が過去から UN 規則よりも厳しくなった経緯もあり、第三者機関からの安全性に関するより詳しい見解などが必要となるが、航空局からの提案として受け入れられる資料が準備できなかったため、今回の ICAO DGP WG/22 会議への非公式提案は見送った。引き続き、関係部署からの指摘事項を踏まえて提案内容を検討する。

◆普及促進委員会

<普及促進委員会>

- ・ 普及促進委員会+政策提言 TF の提言は経産省が作成した「蓄電池産業戦略」の対象電池を広げていただくこと、さらに「蓄電池産業戦略」に取り上げられなかった内容を中心に幅広い提言書を

作成することとなった。税制優遇、関税是正、国産電池安全性周知、電池の回収、電池の安全なリユース、再生材の潤沢な供給、インセンティブについて、可能な限り定量データを準備して対象電池への取り組みをお願いする。

<定置用 LIB 普及強化 WG>

- ・蓄電池産業戦略を実現するため WG を新設、5 社 10 名が参画。9/21 キックオフ会議を実施。系統用、家庭用、産業用にチーム分けして、活動に着手した。
- ・2030 年 国内製造基盤 150GWh、グローバル 600GWh 製造能力確保確立と合わせて、人材の育成・確保を目指す活動着手。「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」キックオフ会議開催（10/13）。

<法規 WG>

- ・LIB 電解液総量規制適正化活動として、「リチウムイオン蓄電池に係る火災予防上の安全対策に関する検討会」の動向ウォッチを継続。リチウムイオン蓄電池を貯蔵する屋内貯蔵所の面積、階数、軒高制限の見直しについては燃焼実験を予定。
- ・「蓄電池設備のリスクに応じた防火安全対策検討部会」に参画。蓄電池設備の設置に関する規制について、電池種ごとの特性に合わせた内容への見直しが必要。次回検討部会に向けて、Ni-MH、LIB に絞り、安全性検証実験を予定。
- ・「急速充電設備の規制のあり方に関する検討部会」において、200kW を超える大出力の急速充電器も「急速充電設備」扱いとする方向で検討実施完了。報告書及び通知発出を経て、現在の「変電設備」から「急速充電設備」へ扱いを変更、必要な措置を講ずる。

◆PL 委員会

(1) 消費者庁の事故情報収集

- ・モバイルバッテリーは、2014 年から増加傾向で 2018 年 7-9 月にピークとなり、以降は 約 20 件/四半期と横ばい傾向で推移。
- ・スマートフォンは、2017 年 7-9 月をピークに 2020 年まで減少したが、2021 年 35 件に上昇、2022 年は 9 月までで 5 件に減少。
- ・ノートパソコンは、2019 年をピークに減少傾向となり、2021 年は 14 件、2022 年は 9 月末まで 1 件で減少傾向。
- ・電動アシスト自転車は、2016 年以降は年間 14~19 件であったが、2021 年は増加し過去最多の 27 件であった。また、2022 年 7-9 月は 4 半期毎の集計で最多の 15 件となり増加。リコールが影響しており焼損事故が起きている。
- ・充電式電気掃除機は、2019 年スティック型クリーナの事故により年間 60 件の事故が発生したが、2020 年以降は横ばい傾向である。非純正バッテリーパックによる火災事故(2022 年：1 件)と、非純正 AC アダプターの使用による火災事故(2022 年：4 件)が発生。
- ・ポータブル電源は、2019 年以降から増加傾向にあり、充電中の焼損事故が多い。ポータブル電源を製造・販売する国内メーカーは少なく、国内市場では海外メーカーの製品が大半を占めている状況。事故情報データベースシステムでは、事故総件数における海外製品の割合は把握できていないが、引き続き発生傾向を注視していく。

◆再資源化委員会

回収困難な電池の処置検討

- ① JBRC では回収できない充電式電池の処置に関して 8 月に実施した BAJ と関係のある回収処理業者へのアンケート結果を内部資料としてまとめた。
- ② 一般(個人)から排出されるラミネート外装のままの電池、故意に取り出された電池、損傷のある電池及び JBRC 会員企業以外の電池の引き取り先がないことを BAJ HP に掲載する注意喚起・啓発

文を作成中。

今回のアンケート結果及びこれまでの調査結果（モバイルバッテリー、ハンディーファン、ポータブル電源の回収関連表示、市町村の分別収集）を生かす仕掛けを考えていく。

◆広報総合委員会

・イベント活動

- ①でんちフェスタの開催を感染拡大防止の視点からイベント内容を検討中。
- ②手づくり乾電池教室を9～11月に4件実施、電池の正しい使い方、廃棄方法、リサイクルの注意喚起、啓蒙を行っている。
・キャンペーン・PR活動
- ①小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起を目的に、月刊誌3分クッキング料理紙12月号に掲載予定。
- ②自動車用バッテリーの定期点検促進を目的に、自動車学校配布雑誌「JACLA プレミアム」に、7月号に続いて12月号に掲載計画。スポーツニッポンにも同様の広告掲載を計画。
- ③コイン型・ボタン電池の乳幼児誤飲事故防止として、人気育児漫画家2名を起用して、インスタグラムへの掲載で注意喚起を行った。
- ④啓発キャンペーンとして、でんち川柳コンテスト募集、電池は正しく使いましょうキャンペーンクイズを実施。

◆国際環境規制総合委員会

1. 活動実績

1.2 環境関連国際会議参加

(1) TWG+（日欧米電池専門家会議）

- ・10月19日 EPBA 本部（ベルギー、ブリュッセル）にて EPBA（欧州）NEMA（北米）ALPiBa（中南米）CESA（オーストラリア）BAJ（日本）の関係者15名が参加した。EPBA から欧州電池規則案のトリロ

ーグの状況が報告された。EPBA は2023年1月以降結果判明、秋頃に最終立法化と予測している。

(2) ICBR（国際電池リサイクル会議）

- ・9月14日～16日、ザルツブルク（オーストリア）で第22回 ICBR が開催された。海外の電池リサイクル状況を把握する目的で Web 登録し、発表資料を会員会社に共有。

1.3 地域別環境情報

(2) 北米

- ・カリフォルニア州の PFAS・PFAS 意図的添加製品・コンポーネントの登録要求法案 AB-2247) に、州知事は2022年9月29日に拒否権を行使した。
- ・カリフォルニア州電子廃棄物リサイクル法の対象に電池内蔵製品加える改正法が成立。
- ・カリフォルニア州が生産者に回収・リサイクルを求める『電池リサイクル』法を発行

(3) 中南米

- ・コロンビア、電気電子機器を分類し、生産者による収集・管理システムの要件を規定する省令を公布。

(4) アジア

- ・インド、拡大生産者責任を含む包括的な電池廃棄物管理規則を公布（自動車用・産業用も対象）

3. JBRC 報告

I. 会員状況

11月1日現在:383 法人(前回報告時より2 法人減)

II. 回収状況 (2022 年度 1H 実績)

- ①回収量:817.6 t、前年同期比84%、市場減速、金属相場が影響していると見ている。
- ②正極系リチウムイオン電池回収量の過去3年間傾向は大きく変化していない。
- ③再資源化率実績の傾向は変化なし。

III. 具体的施策実施内容

(1) 排出事業者への取り組み強化

- ・不安全な電池の混入排出者に改善指導を継続して

おり、2Q は 6 件発生で減少傾向。啓發文書、JBRC だよりで安全徹底の依頼を実施。

(2) 自治体と産廃排出協力店への啓発

- ・優先 373 自治体を抽出し、電話連絡で登録案内実施中。
- ・東京都環境局主催「今後の資源循環施策に関する区市町村と都との共同検討会」に参画。
武蔵野市、町田市は自治体で回収を開始して市民に啓発を実施している。

(3) 一般消費者へのリサイクル意識向上

- ・クイズキャンペーン、展示会、イベントへの出典、出前授業を実施。

2. 再資源化業務(リサイクラー)の持続性強化

- ・日本磁力選鉱(株)の廃電池自動仕分けシステムを JBRC 理事会にて視察。
- ・リサイクラー会議開催
- ・産廃排出協力事業者が年間登録管理費導入で半減しているが、回収量に大きな影響なし。

3. 管理・運營業務の盤石化

- ・共英製鋼の委託業務監査を実施、順次、リサイクラー、収集運搬会社も実施する予定。共英製鋼で 10 月に火災事故が発生、11 月 12 日設備操業開始、12 月初旬に廃棄物受け入れが開始される見込。

4. その他

- ・リチウムイオン電池起因による火災の低減を目的

に、経産省資源循環経済課と事業者による検討会開催に向けて打合せを実施した。

IV. 2022 年 10 月単月回収実績

- ・前年同月比 88%で回復傾向

4. 事務局報告

1) 連絡事項

- ・電気用品調査委員会の事故事例調査部会から、2020 年に起きたリチウムイオン電池に関わる事故について、電気用品安全法の技術基準を改正する必要があるか調査依頼がきている。今回は短納期なので、PSE WG で対応するが、今後 BAJ の対応としては、PL 委員会で事故内容、技術基準改正の必要性を確認し、技術委員会で最終判断して、電気用品調査委員会に報告する。
- ・WRBRF は 2022 年 12 月 6 日 20:00-23:00(日本時間)、オンラインのみで開催。BASC から要請があり今回から参加。BAJ からは、①IEC 規格②BASC 活動状況の説明を行う。対面での開催は、2023 年 9 月頃欧州での開催を予定している。

2) 2022 年度日程

第 106 回 : 2023 年 2 月 10 日 (金) 13:30~16:30

以上

2022年プロ野球最優秀バッテリー賞 表彰式

「2022年プロ野球最優秀バッテリー賞」（主催：スポーツニッポン新聞社、協力：一般社団法人電池工業会）の表彰式が 2022年12月7日（水）、東京ドームホテルで開催された。

1991年本賞創設当時から電池工業会は協力しており、スポーツニッポン新聞社様には、夏と冬に自動車用バッテリーの注意喚起記事など、電池工業会の広報活動にご協力いただいている。

スポーツニッポン新聞社が制定するプロ野球最優秀バッテリー賞は、投手だけでなく、日ごろは縁の下の力持ち的な存在の捕手にもスポットをあて、その年のセ・パ両リーグのナンバーワンバッテリーを選出し表彰する。

パ・リーグ部門は、2年連続でオリックス山本一若月バッテリーが受賞。山本は史上初めて2年連続で最多勝利（15勝）、最優秀防御率（1.68）、勝率第1位投手（.750）、最多奪三振（205）の4冠に輝いた。

若月は打率.281、4本塁打など攻撃面で存在感を示し、本業のリード面でも投手陣をけん引。驚異的な逆転劇でチームを2年連続リーグ制覇に導いた。

セ・リーグ部門の阪神・青柳は今季24試合に投げて、リーグトップの13勝をマークした。防御率2.05、勝率.765も同トップで最多勝利、最優秀防御率、勝率第1位投手の3つのタイトルを獲得。

女房役の梅野は100試合に出場。青柳とのコンビで7勝2敗と好相性ぶりを示した。打率.228、4本塁打、25打点と、打撃でもチームの勝利に貢献した。

電池工業会から清水専務理事がプレゼンターとして出席し、各受賞者に自動車用バッテリーとアルカリ乾電池320本の副賞を贈呈した。表彰式後のプレスインタビューでは、恒例の“乾電池320本の使い道”の質問に対し若月捕手は、「まだ去年の電池が200本ほど残っている。親戚中に配りたい」と笑った。



オリックス 山本投手（欠席）



リックス 若月捕手



阪神 青柳投手



阪神 梅野投手

写真提供:スポーツニッポン

電池月間を迎えキャンペーン・PR 活動を展開

電池月間を迎え、電池工業会の広報活動を精力的に行った。昨年から新たなキャンペーンとしてスタートした「でんち川柳コンテスト」の作品応募を9月~12月に、「電池は正しく使いましょう！」キャンペーンを11月~12月にそれぞれホームページで展開。また、「自動車用バッテリーの定期点検・交換」、「乳幼児の誤飲事故防止」、「小型二次電池のリサイクル・回収」の啓発広告を展開した。今回新たに、Instagramで誤飲事故防止をテーマにした育児マンガ2件をInstagramに掲載。多くの方に閲覧頂いた。



「電池は正しく使いましょう」
キャンペーンポスター



「でんち 川柳コンテスト」
キャンペーンポスター



「乳幼児の誤飲事故防止」
(育児情報誌 Happy Note)



「自動車用バッテリーの定期点検・交換」
(LACLA/自動車学校情報誌)



「小型二次電池のリサイクル・回収」
(月刊誌「3分クッキング」)

コイン型・ボタン電池の乳幼児誤飲事故防止

・〈新規〉Instagram 育児マンガ 飲事故防止をテーマにした育児漫画を9月9日に掲載（2件）

「hibikさん (@hibik0511)」: フォロワー数 2.6万人 <https://www.instagram.com/hibik0511/>
投稿結果 ・投稿いいね! 数: 5,283件 ・閲覧数: 911,077人

「ちひろさん (@chitti_design)」: フォロワー数 20.6万 https://www.instagram.com/chitti_design/
投稿結果 ・投稿いいね! 数: 10,129件 ・閲覧数: 308,003人

※結果、多くの子育てママに拡散され効果がありました。（フォロワー数、投稿いいね! 数、閲覧数は2022/9/22時点）

2022年11月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	2日(水)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	新潟県・徳島県会場の修了考査審議
	2日(水)	広報総合委員会	でんち川柳コンテスト審査方法、フェスタについて 他
	16日(水)	蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備の資格登録の審査、型式認定の審査
	17日(木)	国際環境規制総合委員会	地域別アップデート、海外出張報告 他
二次電池部会	10日(木)	産電技術サービス分科会	蓄電池設備の点検・整備・工事の安全に関するリーフレット作成
	11日(金)	PL委員会	上期爆発件数審議、有毒ガス市場啓発審議
	12日(土)	自動車鉛分科会	IEC 60095-8関連(補機用鉛蓄電池の試験方法に関する審議)
	17日(木)	用語分科会	SBA規格票の作成指針 改正審議 他
	18日(金)	技術委員会	SBA G 0603(蓄電池室に関する設計指針)改正案審議
	18日(金)	充電器分科会	JISC4402改正審議、「蓄電池設備整備資格者講習テキスト」の見直し検討
	21日(月)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域認定申請状況確認、新規申請方法審議 他
	24日(木)	資材委員会	共有金型更新審議
29日(火)	据置鉛分科会	JIS F 8101(船用鉛蓄電池)改正に向けた調査活動	
二次電池第2部会	1日(火)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	2日(水)	蓄電システムWG	建築設備計画基準/設計基準改訂検討
	4日(金)	LIB安全性技術WG	内部短絡試験に関する技術検討
	7日(月)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	8日(火)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	8日(火)	産業用ニッケル水素分科会	IEC規格検討
	8日(火)	リユース規格分科会-リユース・リサイクルTF合同会議	リユース規格に関する審議
	9日(水)	普及促進委員会	蓄電池システムの普及促進に関する提言検討
	9日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池システムの普及強化に向けた戦略実現検討
	9日(水)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	11日(金)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	11日(金)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報集計
	14日(月)	国際電池規格委員会	IEC規格 ANSI規格等の審議対応
	15日(火)	リチウム二次分科会	JIS C 62122-2 誤記訂正対応
	15日(火)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	16日(水)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応
	21日(月)	据置LIB分科会	JIS C 8715-2改正原案作成分科会
	22日(火)	PSE WG	技術基準解釈改正(別表第九廃止)への対応についての審議
	24日(木)	ニカドニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議
	25日(金)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議
	28日(月)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	29日(火)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	30日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池システムの普及強化に向けた戦略実現検討
30日(水)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討	
一次電池部会	8日(火)	規格委員会とコイン形リチウム二次分科会 合同委員会	コイン形リチウム二次分科会/IEC SC21A WG3サンフランシスコ会議報告
	18日(金)	消費者委員会	災害発生時の支援物資 供給対応
	29日(火)	コイン形リチウム二次分科会	IEC61960-4 Ed2 CD案審議
	30日(水)	規格委員会	IEC60086-1,2,3,4 審議

9月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2022年 9月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	403,581	125,573	110%	162%	3,333,715	870,532	96%	110%
一次電池計	247,036	10,224	101%	114%	2,136,239	78,849	100%	106%
酸化銀電池	62,018	1,407	108%	118%	567,304	12,618	108%	124%
アルカリ乾電池計	126,767	5,457	107%	121%	926,748	36,378	98%	102%
単 三	-	-	-	-	-	-	-	-
単 四	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウム電池	58,251	3,360	84%	104%	642,187	29,853	95%	104%
二次電池計	156,545	115,349	126%	168%	1,197,476	791,683	91%	110%
鉛電池計	2,495	17,794	112%	120%	20,782	139,568	96%	104%
自動車用	1,860	11,141	116%	123%	15,783	91,552	97%	106%
その他の鉛蓄電池	635	6,653	103%	114%	4,999	48,016	94%	99%
アルカリ蓄電池計	38,887	27,597	94%	169%	334,276	187,812	88%	112%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
その他のアルカリ蓄電池	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン蓄電池計	115,163	69,958	143%	186%	842,418	464,303	92%	112%
車載用	90,499	57,563	177%	214%	611,988	361,680	97%	117%
その他	24,664	12,395	85%	117%	230,430	102,623	81%	96%

9 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2022年 9月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸出）	215,581	66,597	109%	136%	1,927,046	537,808	98%	114%
一次電池計	100,148	3,191	95%	106%	1,004,161	29,038	101%	97%
マンガン	790	8	-	-	2,084	48	-	-
アルカリ	16,994	341	110%	149%	126,115	2,290	94%	116%
酸化銀	46,410	991	108%	129%	442,283	9,020	106%	128%
リチウム	35,955	1,685	76%	96%	433,677	16,010	98%	102%
空気亜鉛	0	0	-	-	0	0	0%	0%
その他の一次	0	167	9%	65%	2	1,669	48%	32%
二次電池計	115,432	63,406	125%	138%	922,885	508,770	94%	116%
鉛蓄電池	121	1,012	80%	101%	1,293	9,860	92%	101%
ニカド	160	62	46%	70%	2,775	711	61%	74%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	0	0%	0%
ニッケル水素	10,142	10,636	70%	109%	102,069	95,127	77%	120%
リチウムイオン	92,610	37,603	145%	154%	724,994	292,216	98%	111%
その他の二次	12,400	14,092	89%	133%	91,753	110,856	90%	128%
全電池合計（輸入）	99,178	44,792	72%	189%	1,237,053	303,381	111%	156%
一次電池計	89,931	1,946	70%	102%	1,160,864	20,454	111%	128%
マンガン	5,775	106	45%	88%	81,238	1,153	77%	106%
アルカリボタン	2,258	20	327%	289%	24,003	225	145%	183%
アルカリその他	69,013	1,096	71%	87%	909,574	12,553	117%	131%
酸化銀	228	10	746%	1021%	1,869	71	116%	120%
リチウム	9,640	634	74%	149%	104,492	5,285	106%	127%
空気亜鉛	2,999	73	64%	84%	39,646	887	87%	110%
その他の一次	18	7	174%	108%	42	280	110%	173%
二次電池計	9,247	42,846	101%	197%	76,189	282,927	107%	158%
鉛蓄電池	731	4,230	103%	125%	6,973	37,805	101%	113%
ニカド	11	159	15%	108%	543	1,516	96%	88%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	0%	0%
ニッケル水素	2,119	716	80%	136%	19,347	4,473	104%	123%
リチウムイオン	6,352	35,133	113%	211%	48,948	217,334	109%	169%
その他の二次	34	2,608	48%	245%	378	21,798	93%	199%